

# ヨルダン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ヨルダン日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	2	72	3	7	111	4	9	183

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

1993年のヨルダン大学文学部へのJICA海外協力隊員（JOCV）派遣により初めて日本語講座（初級）が開設、2006年より1名ないし2名の日本語教師隊員が派遣され、運営されてきた。日本語専攻学科の設立については以前よりヨルダン大学から当館に要望が寄せられており、2025年現在、開設に向け議論が進んでいる。

2002年からJICA事務所内で一般人向け公開講座が開講された。2008年に現地組織であるJICA研修員同窓会（JAAJ）に移管され、「JICA研修員同窓会日本語公開講座（JJLC）」として運営されてきた。JAAJによる講座においては、子どもから社会人まで幅広い年齢層が学んでいる。また、JAAJは日本語だけでなく文化イベントも積極的に行ってきた。

2017年春学期より、ハーシミーヤ大学にて日本語講座が始まったほか、2020年からアンマン・アラブ大学、

フィラデルフィア大学、2024 年からジャダラ大学やザルカ大学においても日本語講座が開講された。これらの大学では JICA 研修員同窓会 (JAAJ) から派遣された現地人教師や元国費留学生が授業を行っていたものの、2025 年現在開講されているのはハーシミーヤ大学とジャダラ大学のみである。

2025 年現在、主にアンマンにおいて数校の民間語学学校が日本語講座を開講しているほか、ヨルダンの日本語教育機関での勤務を経た後独立したフリーランスの日本語講師も存在し、対面・オンラインで授業が行われている。

## 背景

日本理解の程度は浅いが、親日的なムードが強く、特に日本の経済協力、工業製品への評価が高い。また、テレビやインターネットなどのメディアを通し、文化面への関心も存在する。特にアニメを中心としたポップカルチャーへの関心が高い。

一方、英国による委任統治とその後の親英米政策を反映し英語の地位は絶対的に高く、また欧州と地理的・文化的な距離が近いことからフランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語学習者も多い。

## 特徴

ヨルダンの中心的な日本語学習機関は、ヨルダン大学と JICA 研修員同窓会日本語公開講座 (JJLC) であり、それぞれ年間 100 名以上の学習者がいる。その他、アンマンの民間語学学校や地方の大学 (ザルカ、イルビド) においても日本語講座が開講されており、数名～数十名が学んでいる。日本語の学習目的は、留学や仕事为目的である場合もあるが、大半は趣味や教養目的である。大学以外の教育機関では小学生から大人までさまざまな年代や職業の学習者が共に日本語を学んでいる。また日本語教育機関のない地方都市などで、日本語や日本文化に関心のある人々が集まりサークルを結成し日本語の自主講座を運営したり、インターネットなどを通じて独学で日本語を学んだりする学習者も存在するため、ヨルダン全体の学習者の把握は難しい。

## 最新動向

2025 年現在、ヨルダン大学、ハーシミーヤ大学及びジャダラ大学にて日本語コースが開講されており、アンマン・アラブ大学、フィラデルフィア大学ザルカ大学における日本語コース講座は引き続き閉講している。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 高等教育

- ・ヨルダン大学外国語学部アジア言語学科日本語コース

外国語学部アジア言語学科の選択必修科目及び全学部対象の自由選択科目である。現在は外国語学部生向けの初級 1 から初級 3 までのコースと全学部生向けの初級 1 のコースを開講。2025 年は年間約 150 名が受講した。

1 学期間ないし 2、3 学期間しか日本語学習機会がなく、習得レベルは高くないため、多くの学生は日本語をマスターし進路に活かすことを期待していない。

- ・ハーシミーヤ大学日本語コース

全学部対象の自由選択科目として、2017 年に初級講座が開講され、2024 年に一時休講したのち 2025 年に再開した。初級 1 のみ開講、1 クラスの学習者数は 15～35 名程であり、2025 年には計 33 名が受講した。初級 1 の総学習時間は 45 時間程であった。

- ・フィラデルフィア大学

2020 年秋／冬学期から初級講座が開講され、1 クラスの人数は 9 名であった。2024 年春学期は開講されていない。

- ・アンマン・アラブ大学

2020 年秋／冬学期から初級講座が開講され、1 クラスの人数は 20 名程度であった。2024 年春学期は開講されていない。

- ・ザルカ大学

2024 年に自由選択科目として講座を開講し、約 20 名が受講した。2025 年秋学期以降開講されていない。

- ・ジャダラ大学

2024 年に自由選択科目として講座を開講し、年間約 70 名が受講。

## 学校教育以外

- ・JICA 研修員同窓会日本語公開講座 (JJLC)

B1 から B8 までのコースを開講、1 クラスの学習者数は 7 名～10 名程であり、年間延べ 80～100 名程の学習者がいる。B1～B3 の各クラスの学習時間は 24 時間で、B4～B8 の各クラスの学習時間は 36 時間である。総じて知的興味から日本語を学習する者が多い。年齢層は 10 代から 50 代と幅広く、男性の方がやや多い。職業は中高生、大学生、主婦、公務員、会社員、教員、デザイナーなど多様である。

- ・ヨルダン日本協力協会日本語公開講座 (JJCS)

2014 年から日本語学習に興味を持っている一般人に日本語教育を提供していたが、2015 年に閉講した。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

10-2-2 (4) 制

- 初等教育：初等教育校（10 年）
- 中等教育：中等教育校（2 年）
- 高等教育：短期大学（2 年）、大学（4 年）

小学校入学年齢は 6 歳、義務教育は 10 年間

## 教育行政

初等、中等教育を教育省が、高等教育を高等教育省が管轄している。難民キャンプを対象とする初等、中等教育は国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) が実施 (ただし、難民が UNRWA 以外の学校に入ることは可)。

## 言語事情

公用語はアラビア語。都市部を中心に英語が広く解される。  
また、知識人を中心にフランス語を話す層もある。

## 外国語教育

小学校 1 年生から第一外国語として英語が必須科目。

### 外国語の中での日本語の人気

英語が絶対的な地位を占め、次いでフランス語やドイツ語などの欧州言語の人気が高い。ヨルダン大学外国語学部では同じアジア言語である中国語、韓国語がすでに専攻として設立されているため学習者数は日本語とは比較にならないほど多い。一方で「日本語専攻がないので韓国語または中国語学科に入った」と言う学生も少数ながら存在している。

ヨルダン大学日本語コースは外国語学部生の第三外国語選択必修科目の一科目であり、受講希望者が定員を超えることが多々ある。

### 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。また、日本語学習歴による入学試験得点への加算もない。

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

ヨルダン大学ではかつて『みんなの日本語』スリーエーネットワーク (スリーエーネットワーク) が使用されてきたが、2013 年以降は『にほんご 45 じかん』『にほんごつぎの 45 じかん』沢村美恵子・下田信子 (専門教育出版) が、また、副教材として『かなをまなぼう』ファーリス・シハーブ (国際交流基金カイロ日本文化センタ

一)、『KANJI LOOK AND LEARN』坂野永理・池田庸子・品川恭子・田嶋香織・渡嘉敷恭子 (The Japan Times) が使用されていた。2025 年から、『まるごと 日本のことばと文化』シリーズ A1 かつどう／りかい、A2-1 かつどう／りかい (独立行政法人 国際交流基金編著、来嶋洋美・柴原智代・八田直美著、三修社)を使用している。

ハーシミーヤ大学では、『まるごと 日本のことばと文化』シリーズ A1 かつどう／りかいと、『Try! Start』を使用。

ジャダラ大学では、『まるごと 日本のことばと文化』シリーズ A1 かつどう／りかいを使用。

## 学校教育以外

JICA 研修員同窓会日本語公開講座 (JJLC) では『まるごと A2/B1』が使用されている。

## IT・視聴覚機材

- ヨルダン国内主要都市のインターネット通信環境は良好で、日本語コンテンツ (アニメやドラマなど) への接触が容易であり、インターネットを通じて独学で日本語を習得する学習者もいる。
- 2008 年にヨルダンオリジナル E ラーニングシステム「日本語らくだ」が公開され、現地日本語教師によって運営されている。
- 若者を中心にソーシャルネットワークメディアの利用が盛んで、日本語学習者や親日ヨルダン人の間で多くのコミュニティが作られ、交流や情報交換の場となっている。
- 2012 年に JICA の支援でヨルダン大学及び JICA 研修員同窓会日本語公開講座 (JJLC) にプロジェクターが設置され、それ以降、それらの学習機関ではスライドや動画を用いた授業が実施されている。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

日本語教育分野で博士号を有すること。ただし、JICA ボランティア日本語教師はこの要件を特別に免除されている。

## 学校教育以外

特に資格要件は設定されておらず、個別に判断される。

## 日本語教師養成機関 (プログラム)

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはないが、JICA 研修員同窓会日本語講座（JJLC）では、日本語教師志望の初中級修了者や日本語能力試験（JLPT）の資格保持者をアシスタントとして授業に参加させ、研修を行っている。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現在まで大学及びその他の教育機関で滞在ビザの発給を受けて直接雇用されたネイティブ教師はおらず、ヨルダンの日本語教育は JICA ボランティア日本語教師の継続的な派遣で維持されている。JICA ボランティア日本語教師はコース運営やイベント実施の他、現地人教師の育成も補助している。

## 教師研修

現職の日本語教師対象の研修はないが、エジプトの JF カイロ日本文化センターが主催している「中東・北アフリカ日本語教育セミナー」に参加が可能である。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

- 全国的・恒常的な日本語教育ネットワークはまだ存在していない。
- JICA 研修員同窓会日本語講座（JJLC）の教師数が 2016 年 2 月 4 名、2016 年 11 月 7 名と増えたことから、定期的に情報交換を行っていた。2025 年現在は 3 名が在籍。
- JF カイロ日本文化センターが主催している中東諸国（エジプト、アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、バーレーン、モロッコ、ヨルダン、レバノンほか）の日本語教師のネットワークに参加している。

## 最新動向

特になし。

[教師会・学会一覧へ](#)

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

なし

### 国際協力機構（JICA）からの派遣（2025 年 10 月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

ヨルダン大学外国語学部アジア言語学科 2名

## その他からの派遣

(情報なし)

## 8.シラバス・ガイドライン

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 高等教育

ヨルダン大学の日本語コースの学習時間は1学期あたり40時間程度であり、初級3まで修了した時点でJFスタンダードのA1～A2レベルに到達するシラバスを採用している。

### 学校教育以外

JICA日本語公開講座では、初級4修了時点で初級日本語の教育課程の3分の2が修了できるシラバスを採用している。

## 9.評価・試験

2024年7月からアンマンにおける日本語能力試験(JLPT)を開始し、年に1回(7月)受験が可能となった。

## 10.日本語教育略史

1993年	ヨルダン大学人文学部での講座開設 (JICA 海外協力隊隊員)
1994年	ヨルダン大学にて第1回日本語弁論大会 (以降、毎年開催)
1996年	ヨルダン大学日本語ガイド養成講座開設
2002年	JICA 日本語公開講座開設
2003年	ヨルダン大学日本語ガイド養成講座閉鎖 米英の武力行使による JICA 関係者退避 日本人教師不在の間、ヨルダン人日本語教師がコースを運営
2008年	ヨルダン大学における現地教師の活動開始

恒常的ではないものの、Berlitz 方式で知られている言語学校で、ヨルダン初の商業ベースでの日本語講座を開講  
 ヨルダン大学文学部現代言語学科が、ヨーロッパ言語学科及びアジア言語学科の 2 つの独立した学科に分科  
 JICA 日本語公開講座が現地組織である JICA 研修員同窓会 (JAAJ) へ移管。以降、JAAJ 日本語公開講座 (JJLC) を開設  
 E ラーニングシステム「日本語らくだ」開発開始

**2009 年**

上記システムをインターネット上で公開

**2013 年**

JICA 研修員同窓会公開講座 (JJLC) で現地人教師育成を目的にアシスタントの採用を開始

**2014 年**

ヨルダン日本協力協会 JJCS 日本語公開講座開設 (2016 年現在休止中)  
 JICA ヨルダン日本語教育在外研修を首都アンマンにて、モロッコ、スーダン、イエメン、ウズベキスタンのネイティブ及びノンネイティブカウンターパートに対し、カイロ JF 日本語教育専門家を招いて研修を実施。

**2015 年**

民間の語学教室が新たな日本語講座を開始

**2017 年**

ハーシミーヤ大学での日本語講座開始

**2020 年**

アンマン・アラブ大学での日本語講座開始  
 フィラデルフィア大学での日本語講座開始

**2022 年**

フィラデルフィア大学での日本語講座終了

**2023 年**

アンマン・アラブ大学での日本語講座終了

**2024 年**

ハーシミーヤ大学での日本語講座終了  
 ザルカ大学での日本語講座開始  
 ジャダラ大学での日本語講座開始  
 アンマンにおける日本語能力試験開始

**2025 年**

ハーシミーヤ大学での日本語講座再開  
 ザルカ大学での日本語講座終了

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)